

講座言語●第5巻

世界の文字

西田 龍雄編

91851

講座言語 第5巻



日文701457655

世界の文字

西田 龍雄編



日本財団支援

笹川良一記念文庫

財団法人日本科学協会

大修館書店

講座言語 第5巻

世界の文字

© T. Nishida 1981

1981年4月10日 初版発行

定価 2,700円

検印

編者 西田 龍雄

省略

発行者 鈴木 敏夫

発行所 株式
会社 大修館書店

(101) 東京都千代田区神田錦町3-24

電話 東京 (294) 2221 (大代表) / 振替 東京 9-40504

印刷 / 壮光舎 製本 / 牧製本 装幀 / 鳥居満

*3380-110550-4305

第5巻への序

文字による記録を媒介として文化を伝承していく方法は、人類のみが到達した特権である。人間は実に多くの記録を種々さまざまな文字を使って過去に書き残して来た。その記録に使われた文字の形態に、私たちが限りのない興味を抱くのも、また至極当然と言わねばならない。

現在私たちの知っている地球上の文字は、その字形から見ると、多種多様な形をとっている。ところが、そのような外面上の多様性の背後には、ごく限られた原則しかなく、その原則に支えられて、それぞれの文字は成立しているのである。唯一の原理で支配されている文字もあれば、いくつかの原理の複合からなる文字もある。たとえば日本の仮名は前者であり、漢字は後者である。

本書で、それぞれの分野の専門家である執筆者は、そのような文字成立の普遍原理と、種々の様相を見せている文字の具体的な形態について、現在到達している研究成果をわかり易く解説した。単に文字面の面白さのみを追うのではなく、表記に使っている文字と表記されている言葉との関連をある程度うかがい知るように、そして若干の文字についてはある程度読み下し得るよう配慮したつもりである。

いくつかの文字の字形を比べた場合、字形の発展についての言及はさけ難い。複雑な字形がいかに時代と共に単純化していくのか、そしてある民族が創作した文字が、異民族の手によって使われ、異民族の言葉を書き表わすことによっていかに変形するののかも、重要な課題であって、実に興味ある研究テーマである。

特定の言語に対して、われわれはどのような文字をもって来て

も、表記上の適不適を論外にすると、それを書きあらわせる筈である。たとえば日本語を、仮名はもとより、ローマ字、アラビア文字、チベット文字、タイ文字を使って書き表わすことは不可能ではない。その反面、仮名をもって、世界中のどの言葉をも書き表わし得るのである。しかし、文字による言葉の表記でもっとも重要な点は、ここで論外とした表記上の適不適にある。

ある文字が、特定の言葉を正確に、適切に、そして簡便に表記できてこそはじめて生命をもつのである。それ故に、過去のいろいろの時代に、いろいろの地域で特定の言葉に適合した特自の文字が創作されて来たのである。そのような条件にかなっていればいるほどその文字の生命力は持続し、また次第に繁殖していく。たとえばラテン文字は、強い生命力と広範囲にわたる拡がりをもった文字の一つである。ここでは、そのような生命力の持続性を、文字系統樹の形でとらえた。

そのような生命をすでに失ってしまった文字も、またこの地球上に少くはない。未解読の文字を甦らせるためには、その文字がどのような原理によって支えられているのかを発見することに、基本的に頼らねばならないのである。

本書に、世界の文字をすべて抱括することなどは到底不可能な注文である。しかし能うる限り、代表的な文字をあげ、その解説を多少なりとも加えている。そして特定の文字が具体的にどのような形態をもち、どのように読み、どの文字と親戚なのかを示すところに重点を置いている。

そのようなことにあまり関心をおもちでない読者には、一方で豊富な図版によって、異形文字の存在を知り、中には私たちの想像をこえた異形文字に、十分満足されることを期待している。

当初予定していた杉浦康平氏の「文字の発生と絵文字の世界」は、執筆者の都合により割愛せざるを得なかった。

1981年3月

西田 龍雄

講座言語・全6巻

内容目次

第1巻 言語の構造（柴田武編）

ことばにおける構造とは何か	柴田 武
音韻の構造	小泉 保
アクセントの構造	上野 善道
文法の構造	久野 暲
語彙に構造があるか	日下部文夫
意味の構造と概念の世界	國廣 哲彌
言語の構造の変遷	井上 史雄
構造言語学の成立	千野 栄一
構造言語学と生成文法理論	長谷川欣佑

第2巻 言語の変化（池上二良編）

言語の変化	池上 二良
古い言語の記録	築島 裕
言語の音の変化	田中 利光
文法の変化・単語の変化	大江 孝男
言語の変化の地理的・社会的背景	加藤 正信
記録以前の言語を推定する	風間喜代三
言語の分岐的発達と収束的発達	下宮 忠雄
生成文法からの解明	早田 輝洋
数理的にみた言語の変化	浅井 亨

第3巻 言語と行動（南不二男編）

言語行動研究の問題点	南 不二男
言語行動のモデル	J. V. ネウストプニー
言語行動概観	林 四郎
言語行動と心理	芳賀 純
多言語社会における言語行動	比嘉 正範
発達の面からみた言語行動	天野 清
精神障害と言語行動	木戸 幸聖
言語行動の分析	野元菊雄・江川 清
言語行動の記述	杉戸清樹・沢木幹栄

第4巻 言語の芸術（千野栄一編）

ことばの芸術と芸術のことば	千野 栄一
記号としての文学作品の受容	平井 正
民話の語りにおける定型	直野 敦
「ことば」と「美」	渡瀬 嘉朗
ロシア・文学の言語理論	川端香男里
テキストの言語学とテキストの詩学	池上 嘉彦
ロシア・フォークロアの言語と詩学	伊東 一郎
文学的コミュニケーションの特性	菊池 武弘
口承伝承の記述	西江 雅之

文字（西田龍雄編）

表意文字と表音文字	西田 龍雄
ギリシア・ラテン・アルファベットの発展	日下部文夫
スラヴ系文字の発展	松本 克己
シリア系文字の発展	千野 栄一
アラビア系文字の発展	伴 康哉
インド系文字の発展	内記 良一
東アジアの文字	田中 敏雄
マヤ文字・アステカ文字	西田 龍雄
失われた文字	植田 覚
	矢島 文夫

第6巻 世界の言語（北村甫編）

世界の言語	北村 甫
インド・ヨーロッパ諸語	風間喜代三
セム・ハム諸語	松田 伊作
ウラル諸語	小泉 保
アルタイ諸語	大江 孝男
シナ・チベット諸語	橋本萬太郎
オーストロ・アジア諸語	坂本 恭章
オーストロネシア諸語	杉田 洋
インドの諸言語	奈良 毅
アフリカの諸言語	西江 雅之
アメリカ・インディアン諸語	青木 晴夫
コーカサス諸語，バスク語	下宮 忠雄
旧アジア諸語	宮岡 伯人
アイヌ語	田村すゝ子
朝鮮語	梅田 博之

● 目次

第5巻への序	iii
--------------	-----

世界の文字（西田龍雄）

I 文字の研究	5
II 文字の成立	8
III 文字の発達	21
VI 文字の伝承と改変	33
V むすび	39

表意文字と表音文字（日下部文夫）

I 表意・表音という呼び方	45
II 文字言語の本質	49
III 表記と文字	53
IV 文字の発達段階	58
V 読みとりと表記体系	66

ギリシア・ラテン・アルファベットの発展（松本克己）

I アルファベット以前	75
II ギリシア・アルファベット	82
III ラテン・アルファベット	97

スラヴ系文字の発展（千野栄一）

I はじめに	109
II 資料研究	112
III 二つの文字——グラゴール文字とキリール文字	121
IV グラゴール文字	127
V キリール文字	130

VI	ラテン文字	130
VII	現代スラヴ諸語の文字	134

シリア系文字の発展 (伴 康哉)

I	古代アラム文字からパルミラ文字まで	139
II	シリア文字とその訓点	148
III	ナバテア文字寸描	155

アラビア系文字の発展 (内記良一)

I	シリア地方の古代刻文	161
II	コーランの書写と母音表記	165
III	古典的五大書体の発展	168
IV	イスラム圏における書体の発展	172
V	南アラビア系文字の発展	174

インド系文字の発展 (田中敏雄)

I	文字資料の消滅と時間の断絶	183
II	文字資料の解読と研究史	185
III	アショーカ王碑文の文字	187
IV	グプタ朝期以前のブラーフミー文字	190
V	グプタ朝期のブラーフミー文字	193
VI	スイッダマートリカー文字	196
VII	ナーガリー文字	199
VIII	書字材料の改良と職能集団の成立	201
IX	現行のインド系諸文字の成立	203

東アジアの文字 (西田龍雄)

I	まえがき	213
II	東アジアに分布する文字の系統	216
III	漢字系文字	222

IV インド系文字	234
V ソグド系文字	260
VI 突厥文字	271
VII モソ文字とロロ文字	274
VIII ハングル	277
IX まとめ	278

マヤ文字・アステカ文字 (植田 覚)

I まえがき	281
II マヤ文字の起源と歴史	282
III マヤ文字の基礎的知識	291
IV マヤ文字研究史	302
V 解読実例	309
VI アステカ文字	315

失われた文字 (矢島文夫)

I 古代文字とその研究	327
II 楔形文字の構造	332
III ヒエログリフの構造	339
VI その他の古代文字について	349

<付録> 世界の文字の見本..... 357

事項索引.....	401
文字名・言語名索引	404
人名索引.....	412

口絵 ロロ文字経典, 西夏文字華嚴経

折込 現代世界主要文字の分布概略図 (西田龍雄作製)

● ●

講座言語第5巻

世界の文字

● ●



世界の文字

西田 龍雄

I 文字の研究

1 言語と文字の分布と系統

この地球上で、現在知られている言語の数は、約三千種類ほどある。それに対して、文字の種類の方は、約四百程度が知られるにとどまる。その中には、現在なお使われている文字のほかに、すでに書き手を失ったいわゆる失われた文字も含まれる。その多くは、かつて世界の重要な地域を支配し、高度の文明を誇った民族が使っていた古代文字であり、すでに解読されたのもあれば、いまだに未解読のままでは伝えられているものもある。

それら約四百種類の文字の大体の分布地域は、一枚の地図の上に指定することがもちろん可能ではあるが、言葉と同じように、違った数種類の文字が、同じ地域に重り合って分布するところも少くはない。また同一の言葉が伝承されていく過程で、表記する文字の種類を改めたこともしばしば起っている。

しかし、言葉の分布と文字の分布が大きく相違するところは、いまなお文字をもたない部族がこの地球上に多く存在している点である。しかし、そのような無文字地域は、近い将来、急速に縮少していくものと思われる。

言葉と同様に、文字に関しても、その親縁関係をすべてについて提示できないにしても、そして古代文字については多くの問題が残されているけれども、主な文字の系統樹はおおよそ出来上がっている。もちろん言語の系統と文字の系統は一致するものではない。

以下必要に応じて掲げる系統図は、シカゴ大学教授の文字研究家ゲルプが、以前にまとめた文字系統樹を参考にして作ったもの

である。一つの見方である。

2 文字学・比較文字学・記号論

文字構成の普遍的な原理や一般的な発展の歴史などを探究する文字学のほかに、個々の文字相互の関係、たとえば特定の種類の文字の組織なり字形の成立などを、比較対照的な立場から取り扱う比較文字学や対照文字学と呼べるような学問分野は、まだはつきりとは成立していないけれども、文字学の一分野として十分な資格をもっていると言える。

そして、文字学自体は、言葉を伝達する記号を扱うという基本的な面において、人間行動の種々の記号体系を研究対象とする記号学に包括される性質をもっているのである。

3 文字の定義

筆者は、ここで文字と呼んでいる記号をつぎのように考えている。

「文字とは、特定の言葉の世界で作られた形式^{フォーム}を、その形式とある関連のもとに記録する記号であって、言葉の形式の単位、つまり意味の単位または音素の単位と一定の関係をもたなければならない。」要するに、言葉の単位を一定の約束のもとに置き換えて記録する記号、それが文字なのである。そして、この文字の字形の構成には、普遍的な原理があった。文字の性格と字形構成の原理は密接に関連はするが本質的には別の事柄として扱わねばならない。

4 表意文字と表音文字

これまでに人類が考案した文字の性格を、言葉との関連の仕方